

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-306778

(P2001-306778A)

(43)公開日 平成13年11月2日 (2001.11.2)

(51)Int.Cl.
 G 06 F 17/60
 3/00
 19/00

識別記号
 166
 651
 300

F I
 G 06 F 17/60
 3/00
 19/00

テーマコード(参考)
 166 5B049
 651D 5E501
 300G

審査請求 未請求 請求項の数1 営業 (全 9 頁)

(21)出願番号 特願2000-155407(P2000-155407)

(22)出願日 平成12年4月19日 (2000.4.19)

(71)出願人 596150611
 アイ・シー・エス通商株式会社
 東京都中央区日本橋堀留町1丁目9番2号

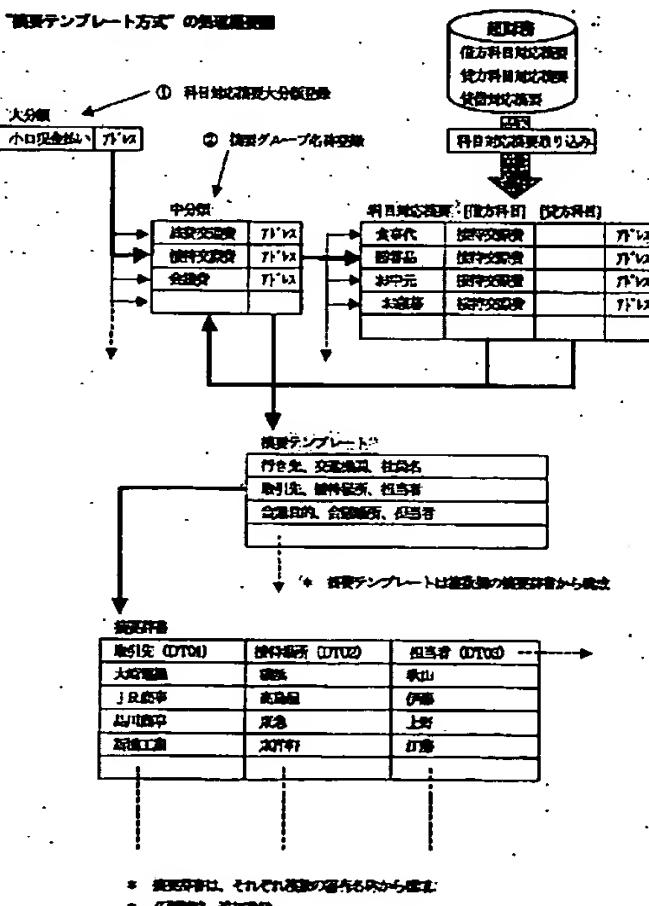
(72)発明者 中山 守
 東京都中央区日本橋堀留町1丁目9番2号
 アイ・シー・エス通商株式会社内
 Fターム(参考) 5B049 AA00 AA01 AA06 DD01 DD05
 FF03 FF09 GG07
 5E501 AA02 AC07 AC18 AC34 BA02
 BA05 CA03 CB02 CB09 EA05
 EA12 EB05 FA25 FA43 FB03
 FB43

(54)【発明の名称】 簡易入力方法

(57)【要約】

【課題】 経理用の仕訳けを行う上で、誤入力を極めて最小限に押さえるとともに専門家を必要としないので人件費を低くすることができる簡易入力方法を提供する。

【解決手段】 商取引の事実を説明する広い意味を有する複数の大分類勘定科目5を情報処理装置1に表示する。作業者が伝票に基づいて大分類勘定科目5から一を選択すると、この一の大分類勘定科目5に対応するとともに商取引の事実を説明する狭い意味を有する複数の中分類勘定科目8を情報処理装置1に表示する。作業者が伝票に基づいて前記中分類勘定科目8から一を選択すると、商取引の事実を説明する具体的な主体と状況を意味する摘要用語15とともにこれら主体と状況を特定するための固有名詞の候補名を備えた辞書11を情報処理装置1に表示する。作業者が伝票に基づいて特定の固有名詞を選択すると、前記一の中分類勘定科目8を借方欄に前記一の大分類勘定科目5を示す科目名を貸方欄に記入した仕訳け帖を情報処理装置1に表示する。作業者が伝票に基づいて前記一の大分類勘定科目を示す科目の対応する位置に金額を入力すると経理用の仕訳けが完了する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 作業者が商取引の事実を証明する書面に基づいて情報処理装置を使用して経理用の仕訳けを行う方法において、商取引の事実を説明する広い意味を有する複数の大分類勘定科目を前記情報処理装置に表示し、作業者が前記書面に基づいて前記大分類勘定科目から一の大分類勘定科目を選択すると、この一大分類勘定科目に対応するとともに商取引の事実を説明する狭い意味を有する複数の中分類勘定科目を前記情報処理装置に表示し、作業者が前記書面に基づいて前記中分類勘定科目から一の中分類勘定科目を選択すると、商取引の事実を説明する具体的な主体と状況を意味する摘要用語とともにこれら主体と状況を特定するための固有名詞の候補名を備えた複数の辞書を前記情報処理装置に表示し、作業者が前記書面に基づいて前記辞書から前記主体と状況を特定する固有名詞を選択すると、前記一の中分類勘定科目を借方欄または貸方欄に、前記一大分類勘定科目を示す科目名を貸方欄または借方欄に記入した仕訳け帖を前記情報処理装置に表示し、作業者が前記書面に基づいて前記一大分類勘定科目を示す科目の対応する位置に金額を入力すると経理用の仕訳けが完了することを特徴とする簡易入力方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、簡易入力方法に関し、特に情報処理装置で行う会計財務処理の過程における簡易入力方法に関する。

【0002】

【従来の技術】情報処理装置で行う会計財務処理では、出金伝票、入金伝票等を見ながら、経理知識に詳しい担当者が、キーボードから逐次入力を行っていた。情報処理装置には会計財務処理のプログラムが設定されているので、入金伝票等から移されたデータが、所定の科目位置に記入されて日常の資金的な経理活動の状態が記録されていくようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来では、入金伝票等から情報処理装置に仕訳データを移す際には、会計上のどの画面のどの欄に当該データを記入すべきかある程度の専門知識が必要で専門家の介入は必須であった。従って人件費が高くなっていた。また例え経理知識の専門家であっても、一定の確率で誤入力が発生し、更に再チェックするために、労力と人手を要しコスト高になっていた。

【0004】この発明は、経理財務的な案内機能と自動仕訳け機能を情報処理装置に備えることにより、経理知識の専門家でない一般の事務職員が、入金伝票等から情

報処理装置に仕訳データを移しても、会計上のどの画面のどの欄に当該データを記入すべきか正確に出来るものであり、結果的に、人件費を低くし、且つ誤入力を極めて最小限に押さえることができる簡易入力方法を提供することを目的とする。また会計業務の経験のない人も、正確・簡単・スピーディに会計データの入力作業が行えるようにすることを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】この発明は上記課題を解決するためになされたもので、作業者が商取引の事実を証明する書面に基づいて情報処理装置を使用して経理用の仕訳けを行う方法において、商取引の事実を説明する広い意味を有する複数の大分類勘定科目を前記情報処理装置に表示し、作業者が前記書面に基づいて前記大分類勘定科目から一の大分類勘定科目を選択すると、この一大分類勘定科目に対応するとともに商取引の事実を説明する狭い意味を有する複数の中分類勘定科目を前記情報処理装置に表示し、作業者が前記書面に基づいて前記中分類勘定科目から一の中分類勘定科目を選択すると、商取引の事実を説明する具体的な主体と状況を意味する摘要用語とともにこれら主体と状況を特定するための固有名詞の候補名を備えた複数の辞書を前記情報処理装置に表示し、作業者が前記書面に基づいて前記辞書から前記主体と状況を特定する固有名詞を選択すると、前記一の中分類勘定科目を借方欄または貸方欄に、前記一大分類勘定科目を示す科目名を貸方欄または借方欄に記入した仕訳け帖を前記情報処理装置に表示し、作業者が前記書面に基づいて前記一大分類勘定科目を示す科目の対応する位置に金額を入力すると経理用の仕訳けが完了することを主旨とする。

【0006】

【発明の実施の形態】以下この発明の情報処理装置で行う会計財務処理の過程における簡易入力方法を図面に従って説明する。まず、簡易入力方法を実施する情報処理装置の構成を図1に従って説明する。情報処理装置は一般的な卓上計算機やパソコン等である。

【0007】図1において、会計用情報処理装置1は中央演算処理装置(CPU)4と入力装置のキー2やマウス3と仕訳けプログラム7とワークメモリ6と表示装置(CRT)16とプリンター17とを備えている。また情報処理装置1は、通信回線13によりサーバー18に接続可能であり、サーバー18には財務、経理、会計、決算、損益計算等の作成プログラムが設けられている。

【0008】通信回線13は社内のLAN、WANでもよく、外部に伸びる専用回線でもインターネットでもよい。特に通信回線13がインターネットの場合には、情報処理装置1では以下に説明する自動仕訳け処理のみを行い、専門的な財務目、経理、決算、損益計算、経理全体処理を外部に依頼することができる。

【0009】ワークメモリ6はRAMからなり情報処理

時の変更データが書き込み読み出しされ、仕訳けプログラム7には会計上の仕訳けプログラムが格納されている。情報処理装置1は大分類ファイル5と中分類ファイル8と追加プログラム9と仕訳帖フォーマット10と摘要辞書11と記憶装置12と摘要テンプレート15とを備えている。

【0010】また、大分類ファイル5には約10種類またはそれ以上の勘定科目例えば、小口現金払い、普通自動引き落とし、普通振込払い、現金入金、普通振込入金、手形回収、未払い、仮払い措置等がコード0001～0008等とともに記憶されている。これら勘定科目の“小口現金払い”等は予め優先度（使用頻度）の高い科目を、財務等の専門家が設定し、この段階で専門知識が必要である。

【0011】さらにこれらの勘定科目、例えば小口現金払いは仕訳け上の行先について借方欄か貸方欄かの属性が、予め財務等の専門家によりそれぞれ決定され記憶されている。この段階で専門知識が必要である。大分類ファイル5の各勘定科目には、独立な中分類ファイル8がそれぞれ対応付けられており、各中分類ファイル8の勘定科目は約10種類またはそれ以上のから構成されている。即ち大分類ファイル5の1個の勘定科目には、中分類ファイル8のn個の勘定科目が対応している。

【0012】例えば大分類ファイル5の“小口現金払い”に対応する中分類ファイル8には、“旅費交通費、接待交際費、会議費、福利厚生費、事務用品費、仮払い、車両費”等が設定されている。同様にこれら勘定科目の“旅費交通費”等は予め優先度（使用頻度）の高い科目を、財務等の専門家が設定し、この段階で専門知識が必要である。

【0013】中分類の各勘定科目には、所定の摘要テンプレート15がそれぞれ対応付けて設けられ、各摘要テンプレート15には“取引先、接待場所、担当者”の各欄が設けられており、更に目的欄やその他必要な欄が追加可能である。同様に各摘要テンプレート名“取引先”等は予め優先度（使用頻度）の高いテンプレート名を、財務等の専門家が設定し、この段階で専門知識が必要である。中分類ファイル8の各勘定科目については、科目対応摘要により、仕訳帖の行先が貸方欄か借方欄か予め決められている。この科目対応摘要は予め財務等の専門家が設定した経理プログラムにより設定される。この場合情報処理装置1に経理プログラムを常駐するか、サーバー18の経理プログラムを使用する。

【0014】各摘要テンプレート15の各欄に対応する摘要辞書11には、取引先辞書20と接待場所辞書21と担当者（社員）辞書22、交通機関辞書23などがある。取引先辞書20には、この仕訳けプログラムを使用する企業や個人の顧客である取引先の名称例えば、“大崎電機とJR商事と品川商事と新橋工業と田町興産と東京産業と浜松化成と有楽商会”等がある。

【0015】また接待場所辞書21には、各種ホテルや宴会場名の“磯浜と高島屋と東急と東洋軒と東京ホテルと三越”等があり、担当者（社員）辞書22には、社員名の“秋山と伊藤と上野と江藤と遠藤と大田と清原と工藤と高橋と山内”等がある。交通機関辞書23には、交通機関名の“地下鉄とカーフェリーと新幹線とタクシーとJR東日本と飛行機とモノレール”等がある。

【0016】更に各交通機関名では実際の会社や路線名で、例えば飛行機では“JAL、ANA、JAS、JTA、ANK”等の航空会社辞書や鉄道、海運、バス会社辞書等が準備できる。摘要辞書11の取引先辞書20の“大崎電機”や接待場所辞書21の“磯浜”や交通機関辞書23の“地下鉄”等は予め優先度（使用頻度）の高いものの名を、この発明を使用する企業や事務所で設定する。

【0017】次に動作について図2のフローチャートに従がって、表示装置16に順次表示される図3から図7、図8、に示す画面を参照しながら説明する。作業者（オペレータ）が情報処理装置1の仕訳けプログラムを起動すると図2のフローが開始する。プログラムROM7から読み出された仕訳けプログラムがワークメモリ6に展開されCPU4はこの仕訳けプログラムに従い以下の動作実行をする。これらの動作は作業者のキー2やマウス3による入力指示と対話形式で応答しながら行われる。

【0018】まず、ステップS1で、CPU4は大分類ファイル5から全ての勘定科目を読み出し表示部16に図3、図8のように画面表示する。ステップS2で、作業者は取り扱っている伝票や領収書が、表示部16に表示している大分類勘定科目のいずれに該当するかを入力する。例えば航空会社（レストラン）の領収書なら一般的な常識に基づいて図3の小口現金払いをマウス3で選択して決定（表示色を変更してボタンをクリック、以下同じ）する。この入力選択により、相手科目（上記の場合は、貸方に現金科目）が決定される。

【0019】ステップS3でCPU4は、選択された大分類の勘定科目に対応する中分類の勘定科目を中分類ファイル8から読み出し、同一画面で図3、図4のように表示部16に表示する。この読み出しは予め財務等の専門家が設定したものであり、自動的に表示されるので、作業者は表示された中分類ファイル8へと案内される。例えば図3の小口現金払いでは、“旅費交通費、接待交際費、会議費、福利厚生費、事務用品費、仮払い、車両費”等が全て表示される。

【0020】ステップS4で、作業者は取り扱っている伝票が航空会社（レストラン）の領収書であるので、一般的な常識に基づいて表示部16に表示している中分類の勘定科目のいずれに該当するかを入力する。ここでは作業者の知識を必要とするが特に財務等の専門知識は必要としない。例えば図4、図8の旅費交通費（接待交際

費)をマウス3で選択して決定(表示色を変更してボタンをクリック)する。この摘要グループ選択により、自分科目(上記の場合は、借方に旅費交通費や接待交際費科目)が決定される。

【0021】ステップS5でCPU4は、当該中分類の勘定科目の旅費交通費(接待交際費)に対応する摘要テンプレート15を読み出し、同一画面で図4、図8のように表示部16に表示する。この読み出しが予め財務等の専門家が設定したものであり、自動的に表示されるので、作業者は表示された摘要テンプレート15へと案内される。即ちその仕訳に必要な摘要項目が“摘要テンプレート”してガイダンス表示される。

【0022】今回の旅費交通費(接待交際費)に関しては、摘要テンプレート15では、“取引先、交通機関(接待場所)、担当者”の各欄が表示される。ステップS6でCPU4は、摘要テンプレート15に対応する摘要辞書11を読み出し、同一画面で図5、図8のように表示部16に表示する。この読み出しが予め摘要辞書11の取引先辞書20の“大阪支店(大崎電機)”や接待場所辞書21の“ANA(磯浜)”や交通機関辞書23の“地下鉄、ANA”等は予め、この発明を使用する企業や事務所が設定したものであり、自動的に表示されるので、作業者は表示された摘要辞書11へと案内される。

【0023】即ちテンプレート表示された摘要項目に予め摘要辞書登録済みの項目名称が経理知識上で有意な順序でリスト表示される。今回の摘要テンプレート15に関しては、摘要辞書11のうち取引先、交通機関(接待場所)、担当者の各欄に対応する取引先辞書20と交通機関辞書23(接待場所辞書21)と担当者(社員)辞書22がそれぞれ読み出される。

【0024】ステップS7で、表示部16に表示している取引先辞書20中のいずれかを入力する。例えば航空会社(レストラン)の領収書に社員がコメントした取引先が“福岡支店(東京産業)”であれば図5、図6、図8の“福岡支店(東京産業)”をマウス3で選択して決定(表示色を変更してボタンをクリック)する。

【0025】ステップS7-2で、表示部16に表示している接待場所辞書21中のいずれかを入力する。例えば航空会社(レストラン)の領収書発行元が“JAL(東洋軒)”であれば図5、図6、図8の“JAL(東洋軒)”をマウス3で選択して決定(表示色を変更してボタンをクリック)する。

【0026】ステップS7-3で、表示部16に表示している担当者(社員)辞書22中のいずれかを入力する。例えば領収書の持ち込み人が社員の“上野(山内)”であれば図5、図6の“上野(山内)”をマウス3で選択して決定(表示色を変更してボタンをクリック)する。即ちこれらのその中から固有名詞を選択指定するだけで、いつも同じ項目の摘要が必要な順番で入力できる。その後、表示部16に表示している摘要テン

プレート15の一般名称:取引先、接待場所、担当者に代り、図6、図8“福岡支店(東京産業)、JAL(東洋軒)、上野(山内)”の固有名詞が表示される。

【0027】ステップS8では、CPU4は、大分類の勘定科目の“小口現金払い”及び中分類の勘定科目の“旅費交通費(接待交際費)”に呼応した仕訳帖フォーマット10を読み出し、同一画面で図7のように表示部16に表示する。この読み出しが予め財務等の専門家が設定したものであり、自動的に表示されるので、作業者は表示された仕訳帖フォーマット10へと案内される。

【0028】次ぎにCPU4は仕訳けプログラム7に従って、大分類ファイル5の“小口現金払い”についてその属性で決められる(予め財務等の専門家が設定した)行先を貸方欄としそこには“現金”を表示し、同時に借方欄にはステップS4で決定された中分類勘定科目の“旅費交通費(接待交際費)”を表示する。ステップS9では、作業者は航空会社(レストラン)の領収書に記載されている例えば“9,000”円をキー2により入力する。

【0029】ステップS10でCPU4はこの“9,000”円を、貸方欄(予め財務等の専門家が設定した行先)の文字“現金”の横に表示する。ステップS11では図7の下方に示すように、仕訳け帖の1行分を年月日、伝票番号、借方科目、貸方科目、金額、摘要の順(予め財務等の専門家が設定した並び方)に、具体的に例えば2000/04/01、00402、(接待交際費)、現金、9,000、福岡(名古屋)支店、JAL(JR)、上野(山内、遠藤)等を表示する。

【0030】そして作業者がこれらの表示を見て“確認”をマウス3やキー2により入力し、ステップS12でCPU4は、1件(枚)の商行為による取引伝票、航空会社(レストラン)の領収書に関する仕訳け帖の1行分及び振替伝票の1行分の作業を完了する。作成された仕訳帖と振替伝票は、記憶装置12に記憶し、ある程度蓄積した後、必要に応じてプリンター17で印刷し、また通信回線13によりサーバー18に送ることができる。

【0031】こうして、クライアント(本願発明使用者)側の情報処理装置1で入力したデータが仕訳帖と振替伝票となり、サーバー18に送られる。通信回線13をインターネットの利用にすると、遠隔地からのメールにこれら仕訳帖と振替伝票とを添付すれば、サーバー側にデータ収集することができ、これからのWeb環境下における会計処理を先取りした先進の“サイバーアカウントティング”として利用できる。

【0032】

【発明の効果】この発明によれば、実際の作業者のクライアント側での操作が、“摘要指向入力”のみで充分作業が完了するので、経理仕事が簡単になる。摘要の選択入力で該当仕訳が表示され、日付や金額などを追加入力

するだけで、入力完了するので、借方科目・貸方科目といった仕訳形式での入力不要で、経理専門要員のいない部署での分散入力に最適の“簡易入力”となる。

【0033】またシステム運用面においても、担当階層別のセキュリティ機能も万全で、今後の分散入力の拡大発展にも安心して対応利用できる。サーバーを中心に複数のクライアントを配置するネットワーク利用が拡大する中、データ入力時における分散入力の簡素化・正確性・機密性が向上する。

【0034】表示案内に従って用件・摘要を入力するだけで、経理専門要員がいない部署でも、データ入力が簡単・正確・スピーディに入力できる。予め経理知識に基づく知識入力で設定済みである超財務の科目対応摘要を、入力キーとして仕訳データを表示し、選択入力するので仕訳間違いが殆ど発生しない。

【0035】経理知識の設定を統一しておけば、クライアント側とサーバ側とも同一処理環境で入力処理が行え、データの整合性がとれる。同一処理環境のため、入力担当者からシステム管理者まで階層別にセキュリティ機能を備えられ、安全性・信頼性が高まる。

【0036】普及している入力データのコクヨ式振替伝票や日計表出力でデータ確認が容易に行える。クライアント側で入力したデータについての元帳や科目残高集計表が、必要隨時にサーバ側から出力できる。入力データは、超財務システムに対し外部データ受入れ処理で転記更新される。経理専門家が少ない遠隔地からは、非経理社員による電子メールの添付ファイル利用などにより、インターネットWeb環境下での収集が可能となる。

【0037】また、テキスト書き出しにより他システムの入力データとしても利用できる。本願の結果物の定型仕訳データを利用して、スキャナ用の伝票発行が効率よく行えるようになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の簡易入力方法が実施される情報処理装置の構成を示すブロック図である。

【図2】本発明の簡易入力方法の動作を説明するフロー

図である。

【図3】本発明の簡易入力方法の動作時の情報処理装置の大分類ファイルを表示する画面を示す図である。

【図4】本発明の簡易入力方法の動作時の中分類ファイルを表示する画面を示す図である。

【図5】本発明の簡易入力方法の動作時の摘要テンプレートを表示する画面を示す図である。

【図6】本発明の簡易入力方法の動作時の辞書選択を表示する画面を示す図である。

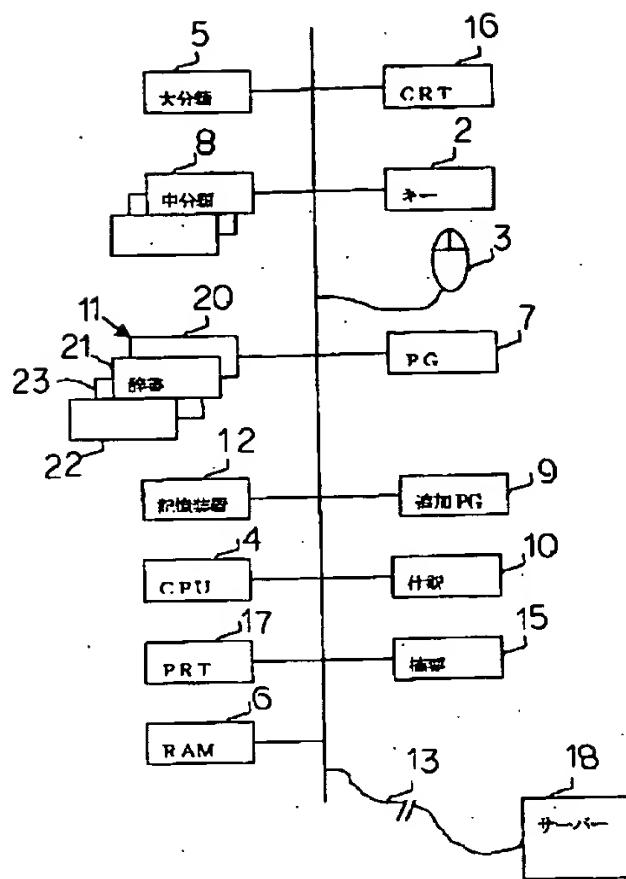
【図7】本発明の簡易入力方法の動作時の仕訳け完了時を表示する画面を示す図である。

【図8】本発明の簡易入力方法の一連の動作を画面上の表示変化にして同時に模式的に示す図である。

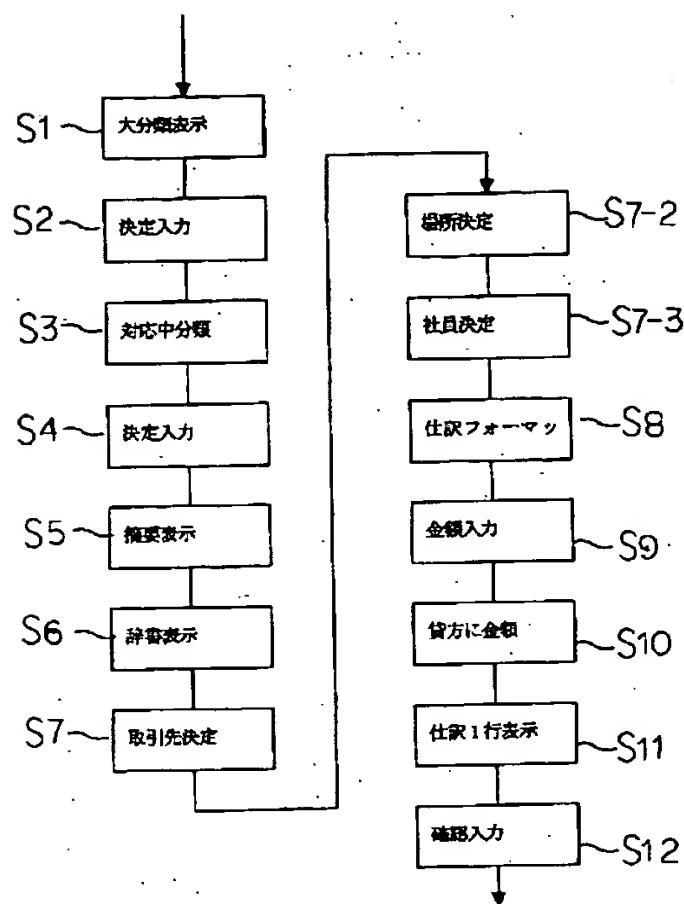
【符号の説明】

- 1 情報処理装置
- 2 キー
- 3 マウス
- 4 中央演算処理装置 (C P U)
- 5 大分類ファイル
- 6 ワークメモリ
- 7 仕訳けプログラム
- 8 中分類ファイル
- 9 追加プログラム
- 10 仕訳帖フォーマット
- 11 摘要辞書
- 12 記憶装置
- 13 通信回線
- 15 摘要テンプレート
- 16 表示装置 (C R T)
- 17 プリンター
- 18 サーバー
- 20 取引先辞書
- 21 接待場所辞書
- 22 担当者 (社員) 辞書
- 23 交通機関辞書

【図1】



【図2】



【図3】

1. 入力選択

- 1) 入力選択で、小口現金払い の項目を指定 = 相手科目が決定される。
- 2) 小口現金払いに含まれる摘要グループが表示される。

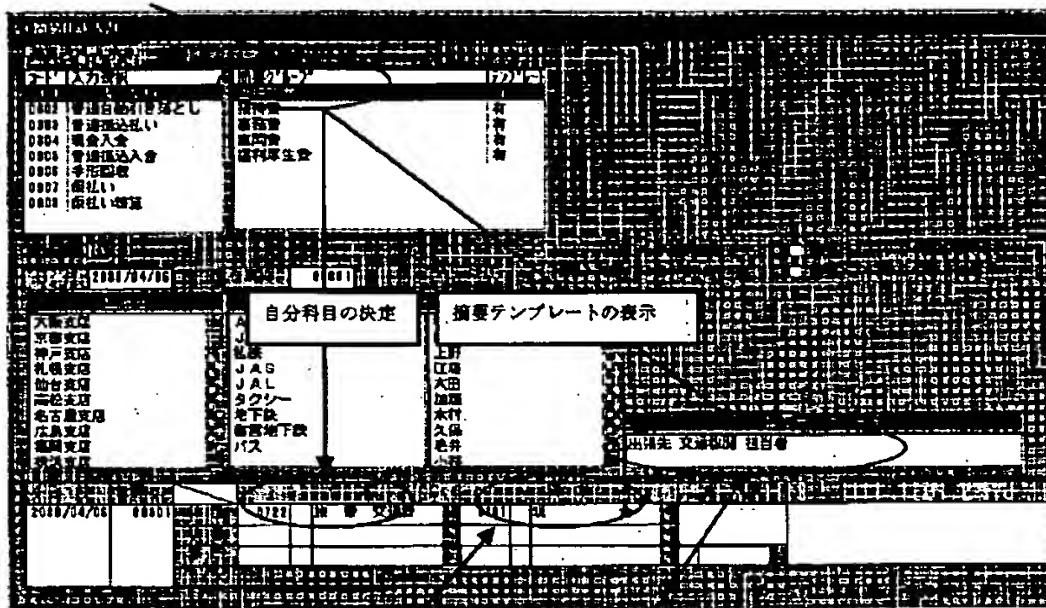
摘要	借方	貸方
0001 現金	有	有
0002 小口現金払い	有	有
0003 現金入金	有	有
0004 現金出金	有	有
0005 現金預入金	有	有
0006 現金回収	有	有
0007 仮払い	有	有
0008 仮払い残高	有	有

【図4】

2. 摘要グループ選択

1) 摘要グループの中から、

出張旅費 を選択する。 = 自分科目が決定される。



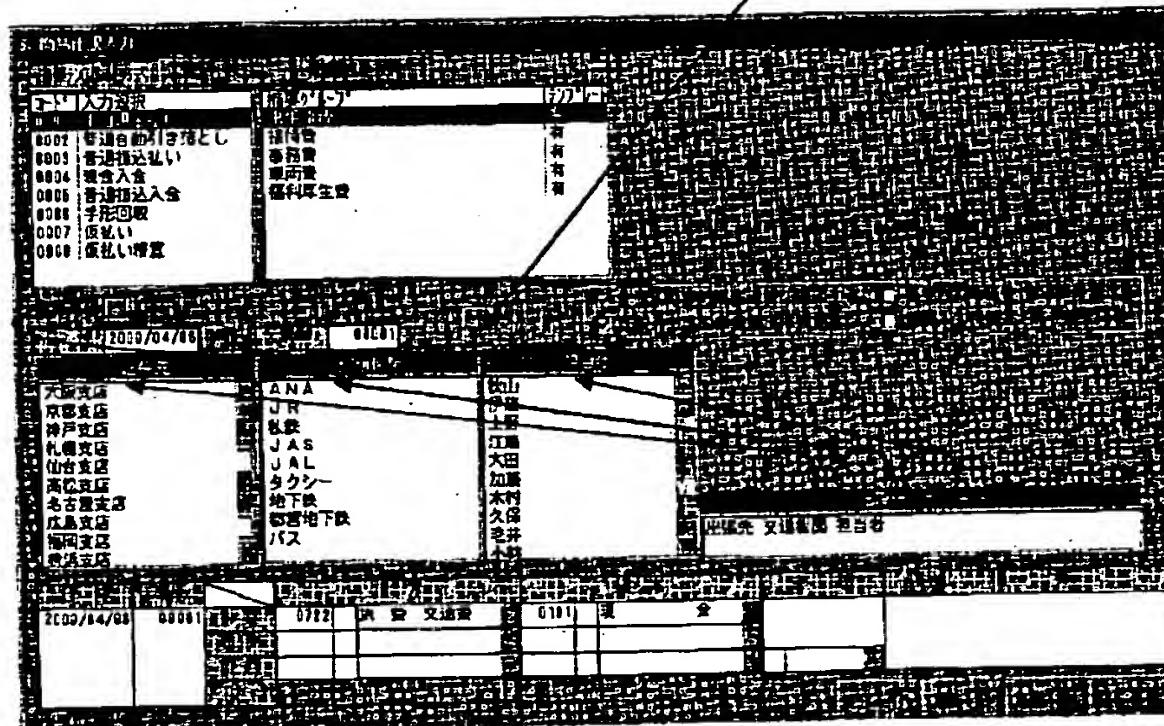
相手科目は、入力選択により決定されている。

2) 摘要グループで選択した項目に対応した“摘要テンプレート”が表示される。

【図5】

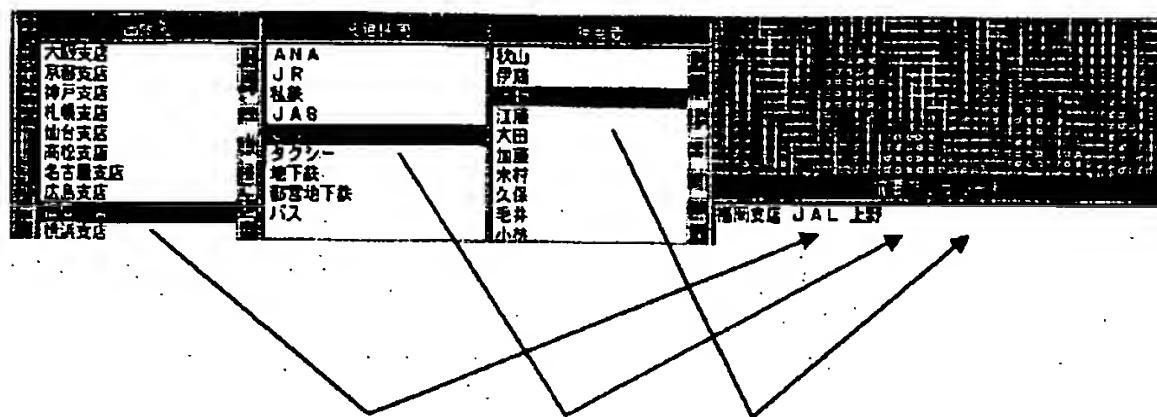
3. 摘要テンプレート

1) 摘要テンプレートに表示された摘要項目に対応した名称が、それぞれの“摘要辞書ファイル”から一覧表示される。



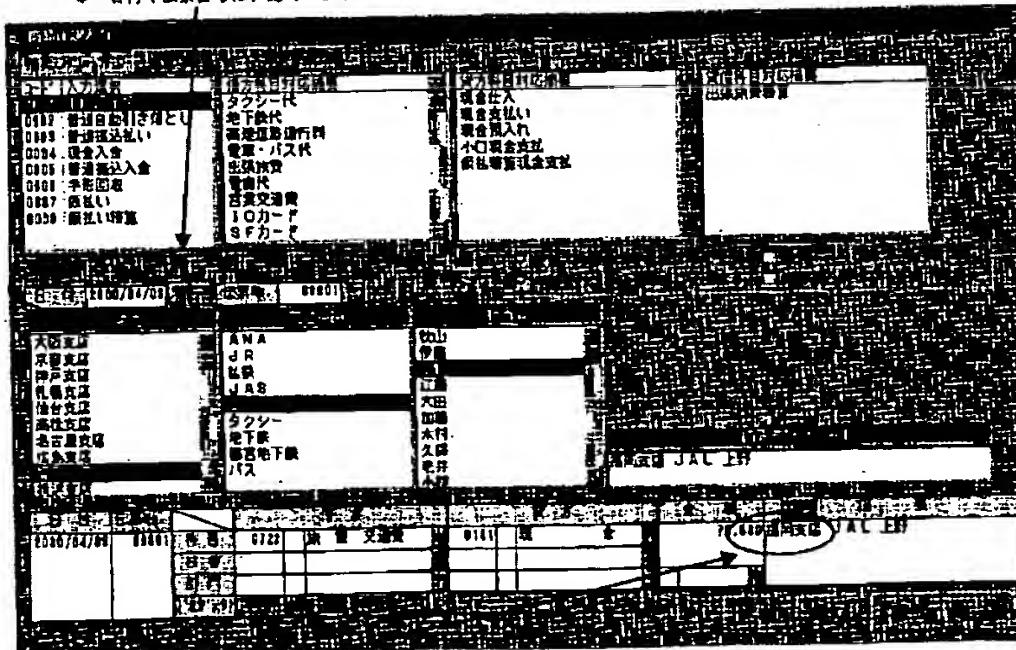
【図 6】

2) 一覧表示された摘要辞書ファイルの中から、
該当する名称を選択することにより、摘要テンプレート内の摘要項目が摘要名称に置き換わり
表示される。



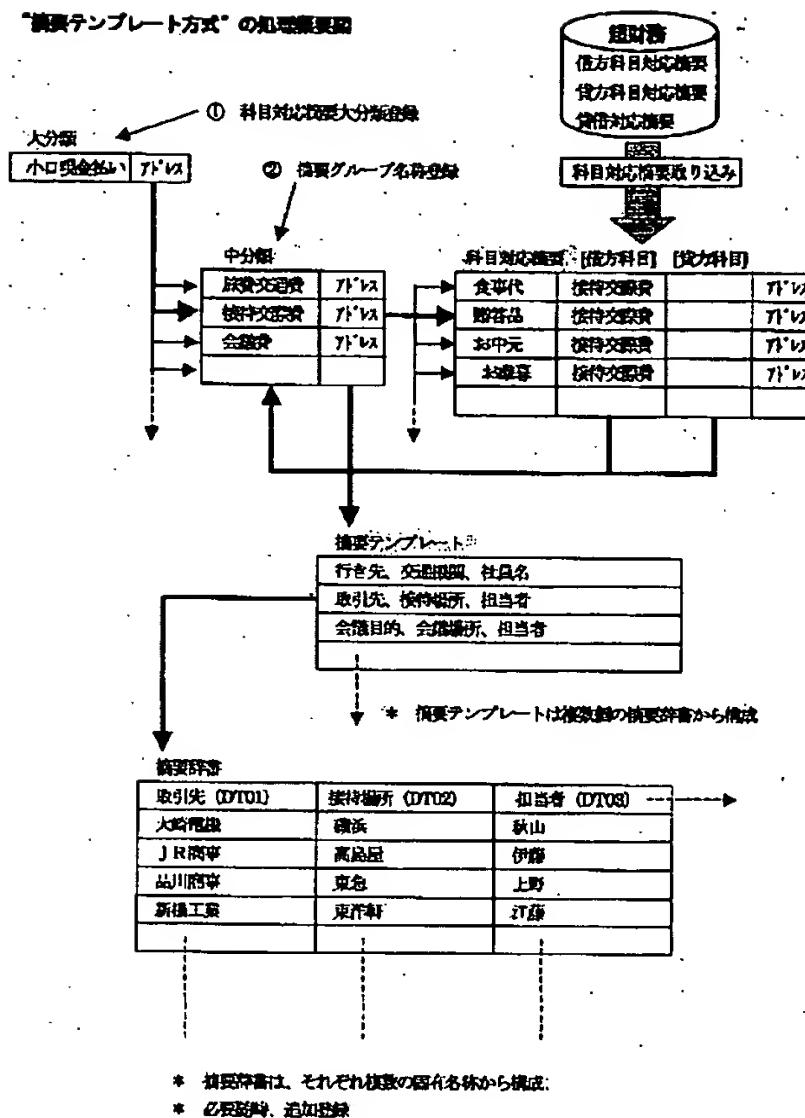
【図 7】

4. 金額の入力で仕訳入力が完了する。
* 日付や伝票番号は、貯時セットにより自動入力される。



1) 金額を入力することで、仕訳入力が完了する。

【図 8】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.